

(腱膜性)眼瞼下垂症手術

上まぶたが下がってうっとうしくありませんか？

(写真掲載本人承諾済)



術前



術後



術前



術後

眼瞼下垂症とは、上瞼（うわまぶた）が下がってきて、物が見えにくくなっていく状態のことをいいます。それには、生まれつきの先天性眼瞼下垂症と後天性の眼瞼下垂症があります。後天性の眼瞼下垂症のほとんどは、腱膜性眼瞼下垂症といって、年齢をとるとともに上瞼の皮膚がたるんだり、上瞼をもち上げる筋肉が伸びきったり、固定部がゆるんだりするのが原因です。ハードコンタクトレンズの使用、瞼のこすり過ぎなどでも起こる場合があります。**頭痛・目の奥の痛み・肩こり・首筋の張りの原因ともなります。**

【治療】その原因によって、たるんだ皮膚を切除したり、ゆるんだ腱や筋肉をしっかりと固定しなおしたりします。

【麻酔と手術時間】手術は局所麻酔でおこないます。片側で約45分、両側で90分程です。

【入院は？】片方だけの場合は通院でも可能ですが、両側の場合、とくに高齢者や抗凝固薬を服用している人では数日間の入院をすすめます。**保険が効きます。**

【経過】瞼の腫れの予防に術後数時間は冷却します。抜糸は1週間目にします。3～4週間は瞼が腫れますので、淡い色サングラスをかけることをすすめます。傷痕や腫れが完全に落ち着くには4～5ヶ月ほどかかります。

【結果】見える範囲が広がり見えやすくなります。また、頭痛や肩こりがあった人では改善することがあります（当科の統計では、症状があった人のうち女性では88%、男性で83%の人で改善しています）。外見的には、ひたいの皺が目立たなくなったり、上瞼がのびていた人では短くなります。

【合併症】血が止まり難い人や高齢者では、術後に皮下溢血で瞼が暗紫色になることがあります。3週間ほどで消えます。ある期間、ドライ・アイという目の乾きを訴える人がありますが、そのような人では慣れるまでは目薬をさします。その他、顔つきが若返った感じがしますが、眼つきが厳しく見える方もいます。また、ひたいの皺が目立たないぶん、瞼の内側や鼻根の小じわが目立ってくる場合があります。

詳細は、**形成外科外来**でご相談下さい。
形成外科科長 竹内正樹（水曜日・金曜日担当）